

統計トピックス

4月 半数以上がストレスあり — 平成12年保健福祉動向調査

厚生労働省が発表した平成12年保健福祉動向調査で、ストレスの程度が「大いにある」11.8%、「多少ある」42.4%を合わせると54.2%、「あまりない」の25.3%を含めると79.5%が何らかのストレスがあり、このうち39.3%は「生活に多少なりとも影響がある」と答えています。

ストレスを取り上げた調査は昭和63年以来二度目で、何らかのストレスがある者について、その内容をみると、「仕事上のこと」が30.5%と最も多く、「自分の健康・病気・介護」、「収入・家計」、「職場や学校での人づきあい」の順となっています。

解消法について、男性は「趣味・スポーツにうちこむ」34.6%、「のんびりする」33.4%、「テレビを見たりラジオをきいたりする」30.1%の順となり、前回調査で1位だった「酒をのむ」は4位に後退して、ストレス解消法は飲酒から健康志向になっていることがわかります。また、女性は「人に話して発散する」が53.4%で前回と同様に1位となり、次いで「テレビを見たりラジオをきいたりする」、「のんびりする」が31.8%の順となりました。

5月 月1回以上の外食が多い — 平成12年度外食の動向に関する調査

農林水産省が発表した外食の動向に関する調査によると、この1年間に家族と外食する頻度を調査したところ、「月に1～2回」が43.8%で最も多く、次いで「2～3か月に1回位」21.2%、「週に1回位」21.2%となっています。一方、外食の頻度が少ないのは、「2～3か月に1回位」が21.2%、「半年に1回位」が8.3%、「年に1回位」が2.5%、「外食はしない」が2.6%となっています。

また、外食1回1人当たりの支出金額は、「1,000円以上、1,500円未満」が34.7%で最も多く、次いで「500円以上、1,000円未満」22.4%、「1,500円以上、2,000円未満」16.7%となっており、外食をする理由では、「家庭で出来ないもの、おいしいものを食べたいから」を選ぶ人が46.3%で最も多く、次いで「買い物やレジャーで外出したいから」44.6%、「家族のお祝いごとのため」36.5%となっています。

6月 3分の2の同居未婚者、家計に繰り入れ — 世帯内単身者に関する実態調査

厚生労働省所管の国立社会保障・人口問題研究所が初めて行った、社会人になっても親と同居し、「パラサイト・シングル」と呼ばれる18歳以上の未婚親族がいる世帯を対象とした世帯内単身者に関する実態調査で、世帯構造は「両親と未婚の子のみ」が58.5%を占め、「一人親と未婚の子のみ」15.1%を加えると73.6%が核家族で、一戸建ての持ち家比率は76.1%、未婚者の89%が自分専用の部屋を持つなど、住宅環境にも恵まれていることがわかりました。

未婚者の年齢は全体の約6割が20歳代に集中し、男女別に平均年齢をみると、男性が27.6歳、女性が26.2歳となっており、就労状況では、87.8%は仕事を持ち、そのうちフルタイムで仕事をしているものが7割以上いることがわかりました。

また、家計への繰り入れの有無を調べたところ、3分の2の未婚者が家計に繰り入れしており、金額は平均して28,500円となっています。繰り入れ額の平均を世帯の所得階層ごとにみると、所得階層が低い層に比較的高い繰り入れが認められ、同省では、同居することは、家族との同居による経済的恩恵を一方的に受けているばかりというわけではないようだと分析しています。